



公開シンポジウム

いま知りたい

臨床宗教師

東日本大震災、復興、地域の絆……

終末期医療、看取り、介護……

心と命の現場を臨床宗教師が語る。

主催 北海道東北臨床宗教師会
東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座
共催 心の相談室
後援 東北大学大学院文学研究科
河北新報社

入場無料

事前申込不要
(定員200名)
問い合わせ等
裏面参照

開催日時 平成 27 年 **12 月 6 日 (日)** 開場 13:30 / 開会 14:00

会場 東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟二階大講義室

アクセス 12月6日開通の仙台市営地下鉄東西線をご利用ください。
地下鉄東西線国際センター駅下車①番出入口から徒歩5分
※詳細は裏面をご参照ください。

プログラム その1.基調講演『臨床宗教師のスピリチュアルケア』
東北大学文学研究科准教授 谷山 洋三

その2.臨床宗教師の語り ～「挽歌の宛先」を紡いで～
河北新報の取材を受けた4名の臨床宗教師が、特集「挽歌の宛先」で紹介されました。
宗教者としての思い、臨床宗教師としての思いを語り、自らの活動について語ります。

〔語り手〕 高橋 悦堂(普門寺・栗原市) 三宅 大哲(照源寺・女川町)
奥原 幹雄(金光教・気仙沼市) 松山 宏成(昌林寺・仙台市)

その3.臨床宗教師を取材して
河北新報社 報道部記者 村上 俊

その4.医療者介護者から見た臨床宗教師の可能性
コメンテーター 石巻赤十字病院医師 鈴木 聡

私たち、臨床宗教師とは

東日本大震災では多くの宗教者が被災地に入り活動しました。遺体安置所や火葬場などの弔いの儀礼や、被災された方の悲しみへの深い寄り添いなどは、宗教者にしか出来ない支援として評価されています。同時に医療や福祉の分野では、生と死に向き合い苦しむ方々への「心のケア」の重要性が今まで以上に強く意識されています。仙台・名取で在宅緩和ケアに携わっていた故岡部健医師はこの分野への宗教者の介入の必要性を訴えていました。

2012年、東北大学に実践宗教学寄付講座が設置され「臨床宗教師」の養成講座が始まり、修了生は今年120名を超えます。臨床宗教師とは、寺社や教会などの宗教施設の中だけでなく、公共性と宗教間協力の理念に立ち、布教を目的とせず、心のケアを必要とする人々のニーズに応じて活動する宗教者のことを言います。

今、臨床宗教師は何を行い、何を目指しているか、そしてこれからの可能性について、皆様と共に考えて参りたいと思います。

※北海道東北臨床宗教師会とは

平成26年12月、東北大学主催の臨床宗教師研修修了生によって発足した組織。会員の資質向上・社会への啓発活動などを目的として設立された。

※心の相談室とは

2011年3月11日の東日本大震災では、宮城県に限っても死者・行方不明者合わせて1万4千人を超えている。このような状況において、ご遺族に対して、弔いから悲嘆ケアまで、一貫した切れ目のない支援を行うことを目的に「心の相談室」は設立された。

会場のご案内

■会場

東北大学川内南キャンパス
文科系総合講義棟二階大講義室

■交通アクセス

【地下鉄】仙台市営地下鉄東西線国際センター駅
(平成27年12月6日開業)①番出入口
より徒歩5分

【市営バス】東北大川内キャンパス・萩ホール前
下車

※ご来場の際は公共交通機関を
ご利用ください。



会場
文科系総合講義棟
二階大講義室

■お問い合わせは、下記方法にて「北海道東北臨床宗教師会」までお願い致します。
メール ht.rinshushikai@gmail.com / Facebook 「北海道東北臨床宗教師会」
電話 090-8921-6728 (北海道東北臨床宗教師会 事務局担当 吉田)